

厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業

循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究

(令和)5年度 総括研究報告書

研究代表者 磯部 光章

(令和)6 (2024) 年 5月

研究報告書目次レイアウト

目 次

I. 総括研究報告	
循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究	1～4
磯部光章	
(資料) 維持期リハビリテーションのアンケート調査依頼用紙	
II. 分担研究報告	
1. 循環器病リハに対する慢性期・維持期リハのレビュー作成(心臓)-----	5～7
明石嘉浩	
(資料) システマティックレビュー	
2. 循環器病リハに対する慢性期・維持期リハのレビュー作成(脳卒中)----	8
下堂蘭恵	
(資料) ナラティブレビュー	
3. 維持期リハビリテーションの多施設アンケート調査(心臓)-----	9
木庭新治	
(資料) 多施設アンケート調査(心臓)	
4. 維持期リハビリテーションの多施設アンケート調査(脳卒中) -----	10
中井完治	
(資料) 多施設アンケート調査(脳卒中)	
5. 維持期リハビリテーションのガイドブック作成(心臓・脳卒中)-----	11～13
牧田茂、角田亘、中山敦子	
(資料) 維持期リハビリテーションガイドブック	
6. 市民公開講座の実施とオンデマンド配信 (心臓・脳卒中) -----	14～15
磯部光章	
(資料) ポスター	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	16～17

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（総括）研究報告書

循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究

研究代表者 磯部光章 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院院長

研究要旨

現在わが国では、循環器病リハビリテーション(循環器病リハ)は、脳卒中と心血管疾患や心不全を含む心臓病を対象とした急性期から回復期へのリハが中心となっている。一方で、維持期リハの実施状況、有効性については、エビデンスが著しく不足しており、その実態は不明である。そのため、本研究班ではまず、心臓と脳卒中リハビリテーションにおけるレビューを作成し、実態調査目的の全国アンケートを実施、その後、これらの結果を踏まえた慢性期・維持期におけるリハビリテーションのガイドブックを作成し、最終的に市民公開講座で啓発を行った。

分担研究者

中山敦子・榊原記念病院心臓リハビリテーション
室長

A. 研究目的

本事業では、令和4年度に①国内外の文献を整理し、維持期リハのレビューをまとめ、②回復期から維持期リハへの移行時期に生じる問題点を、学会・協会を通じた全国アンケート調査を実施して解析する。令和5年度では、①②で得られた知見をもとに、医療者、市民を対象に維持期リハの指針を作成する。その後、更にガイドブックを作成することで、医療者が循環器病患者へ適切な維持期リハを誘導することができ、患者自身も知識を得て実践可能とする。

B. 研究方法

①維持期リハビリテーションにおけるレビューは心臓チームにおいて、心筋梗塞、狭心症、心不全の疾患に対するシステマティックレビューが作成された。脳卒中グループでは脳卒中ガイドラインを基にナラティブレビューが作成された。②維持期リハビリテーションにおける実態調査アンケートは、心臓、脳卒中グループにおいてそれぞれ実施された。③維持期リハビリテーションにおけるガイドブック作成は、①レビュー、②アンケートを基に各班員が原稿を作成した。

（倫理面への配慮）

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則に則り、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を遵守して実施する。研究において使用する研究計画書、情報公開文書、各種手順書及びその他の資

料は、倫理審査委員会で審議・承認され、研究機関の長の許可を得てから研究を開始する。これらの資料等に変更がある場合も、同様に倫理審査委員会での審議・承認及び研究機関の長の許可を得てから実施する。研究責任者は、研究に関わる全ての関係者が研究倫理及びその他の必要な知識・技術に関する教育研修を完了し、さらに研究期間中も継続して教育研修を受けることを保証する。

C. 研究結果

①維持期リハビリテーションにおけるレビューは心臓チームにおいて、心筋梗塞、狭心症、心不全の疾患に対するシステマティックレビューが作成された。脳卒中グループでは脳卒中ガイドラインを基にナラティブレビューが作成された。②維持期リハビリテーションにおける実態調査アンケートは、心臓、脳卒中グループにおいてそれぞれ実施された。③維持期リハビリテーションにおけるガイドブック作成は、①レビュー、②アンケートを基に各班員が原稿を作成した。

D. 考察

レビュー作成において維持期の定義に難儀した。研究班では心血管病と脳卒中の回復期後のリハビリ期間の呼称について、以下のように統一を図った。心血管病では、心大血管疾患リハビリテーションの保険適用期間が終了した後の期間（発症またはリハビリ開始から150日以降）を「維持期」と呼称している。一方、脳卒中では、発症から180日以降は回復期で得られた状態を維持し、療養環境や生活基盤の確保、患者・家人等のケアが必要である期間として、「生活期」と呼称している。そのため、本ガイドブックでは、回復期後の期間を統一的に「維持期・生活期」と併記し、個別の記載として心血管病では「維持期」、脳卒中では「維持期・生活期」を主に使用することとした。

本ガイドブックは標準的な診療の基準を示したガイドラインとは異なり、病院の専門医だけでなく、かかりつけ医およびその周辺の多職種が現場で参照するという視点から、既存の指針の内容とも齟齬がないように作成した。脳卒中と心疾患のリハビリは共通項も多く、一つの冊子体の中で共通項と個別の情報をとり上げながら、統一性をもたせてガイドブックにまとめた点で、これまでにない実用書の体裁となった。本ガイドブックが専門医、一般実地医家のみならず、多職種医療者へのリハビリの普及と質の高いリハビリの実践のために活用されることを目指した。

E. 結論

維持期・生活期リハビリテーションは心疾患においても脳卒中においても有効であり、多施設アンケートの結果では、大多数の施設が保険適用での維持期リハビリテーションの実施を希望していた。レビューの結果とアンケート結果を踏まえて、どのような場合に維持期・生活期リハビリテーションの実施を推奨するか令和5年度の事業でガイドブックに記載し、3月22日に厚労科研FA19のホームページ上に医療者向けガイドブックと患者向けリーフレットを公開し、市民公開講座でも周知を行った。

F. 健康危険情報

本研究は侵襲を伴わないレビュー作成、アンケート調査、ガイドブック作成のため、健康被害等は生じなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

① 医療従事者向けガイドブック「脳卒中・心血管病の維持期・生活期におけるリハビリテーションガイドブック」

「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」研究班

<https://cardiac-rehab.jp>

② 回復期から慢性期・維持期への移行時期に生じる心大血管リハビリテーションの現状と課題

木庭新治, 中山敦子, 牧田 茂, 佐田政隆, 石原 俊一, 衣笠良治, 長谷川恵美子, 宮島 功, 吉田俊子, 磯部光章

心臓リハ 2024 ; 30

③ Impact of Long-Term Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients with Chronic Heart Failure – A Systematic Review and Meta-Analysis.

Shuhei Yamamoto, Masatsugu Okamura, Yoshihiro J Akashi, Shinya Tanaka, Masashi Shimizu, Yohei Tsuchikawa, Kohei Ashikaga, Kentaro Kamiya, Yuko Kato, Atsuko Nakayama, Shigeru Makita, Mitsuaki Isobe.

Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 2024年1月12日

④ 慢性期・維持期冠動脈疾患に対する心臓リハビリテーションの有効性に関するレビュー

足利 光平, 明石 嘉浩, 加藤 祐子, 神谷 健太郎, 山本 周平, 岡村 正嗣, 田中 伸弥, 土川 洋平, 清水 将史, 吉岡 さゆり, 中山 敦子, 牧田 茂, 磯

部 光章

心臓 55(10) 1003-1014 2023年10月

⑤ 新しい分野の心臓リハビリテーションを知る
社会復帰と就労支援をサポートする心臓リハビリテーション

中山 敦子

循環器ジャーナル 71(3) 386-392 2023年7月

⑥ 心臓リハビリテーションチームを主体とした
両立支援の実例 遠隔両立支援も含めて

中山 敦子

心臓 55(6) 554-558 2023年6月

⑦ 遠隔診療の実例

中山敦子

Medical Practice vol.40 No.6 2023 2023年6月

⑧ 治療と仕事の両立支援 心疾患

中山 敦子

The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 60(5) 394-400 2023年5月

⑨ 大血管疾患への心臓リハビリテーションの最新トピックス, 遠隔大血管管理を含めて

中山 敦子

循環器内科 93(4) 376-382 2023年4月

⑩ 脳卒中の維持期(生活期)リハビリテーションの
効果に関するナラティブレビュー

「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」班

脳卒中 46(1) 87-119, 2024. (Jpn J Stroke 46: 87-119, 2024)

2. 学会発表

2023年日本心臓リハビリテーション学会(横浜)

2023年7月16日(日) 13:50 ~ 15:50 第9会場
(4F・G401)

会長特別企画

「循環器病のリハビリテーションに関する厚労科研報告—日本脳卒中学会との共同研究—」

座長:

角田 亘 (国際医療福祉大学医学部 リハビリテーション医学教室)

牧田 茂 (埼玉医科大学国際医療センター 心臓リハビリテーション科)

演者:

循環器病の慢性期・維持期、および複合リハビリテーションについての研究: 厚生科学研究費事業中間報告

1. 磯部 光章

循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究

2. 中山 敦子

榊原記念病院

3. 心大血管疾患に対する慢性期・維持期リハビリテーションのエビデンス

明石 嘉浩、山本 周平、岡村 正嗣、田中 伸弥

、清水 将史、土川 洋平、足利 光平、吉岡 さゆり、加藤 祐子、神谷 健太郎、牧田 茂、磯部 光章

4. 脳卒中生活期におけるリハビリテーションの効果に関するナラティブレビュー

下堂 蘭 恵、橋本 洋一郎

5. 循環器病に対する複合リハビリテーションを含むリハビリテーションの現状と課題の明確化のための研究

藤本 茂

6. 心疾患リハビリテーション現場における複合疾患の横断研究

安 隆則

7. 急性期脳卒中患者における様々な合併症の頻度～多施設前向き調査の結果から～

角田 亘

2023年心臓リハビリ学会関東甲信越地方会(大宮)

2023年11月25日

シンポジウム「循環器病の維持期ならびに複合リハビリテーション

の研究成果中間報告ー厚生労働科研事業よりー」

【座長】牧田茂、木庭新治

1) 神谷健太郎先生(北里大学)

心不全と冠動脈疾患に対する慢性期・維持期リハビリテーションのレビュー

2) 中山敦子(榊原記念病院)

循環器病の慢性期・維持期リハビリテーションの有効性の検証のための研究

3) 磯良崇(昭和大学)

心疾患患者における回復期リハビリテーションの効果と安全性

4) 安隆則または田村由馬(獨協医科大学日光医療センター)

心疾患リハビリテーション現場における複合疾患の頻度調査

第11回日本心血管脳卒中学会学術集会

2024年3月6日 会長 藤本茂

11:10～12:20 シンポジウム 3

日本脳卒中学会、日本循環器学会との合同シンポジウム

「循環器病リハビリテーションの未来図」

座長:

藤本 茂

(自治医科大学 内科学講座 神経内科学部門)

磯部 光章

(公益財団法人 榊原記念財団 附属 榊原記念病院)

演者:

1. FA19アンケート調査から(心臓病)

中山 敦子(榊原記念病院 循環器内科/心臓リハビリテーション/心臓病総合支援センター)

2. 維持期の心大血管疾患リハビリテーションの有効性に関するレビュー:

厚生労働省FA19心臓レビュー班より

神谷 健太郎(北里大学医療衛生学部)

3. 複合疾患を有する脳卒中、心臓病疾患に対するリハビリテーションの現状から考える未来図

竹川 英宏(獨協医科大学病院 脳卒中センター)

急性期脳卒中における複合リハビリテーションの

現状

原 毅(国際医療福祉大学 保健医療学部理学療法学科)

2024年日本循環器学会(神戸)

3月10日(日) 10:30～12:00

第16会場(神戸国際会議場 1階「メインホール」)

複合疾患および回復期・維持期の心臓リハビリテーション:第二期循環器病対策推進基本計画に向けて

座長:

牧田 茂(FJCS)(川口きゅうぼろリハビリテーション病院 リハビリテーション科)

中山 敦子(FJCS)(榊原記念病院 循環器内科)

Opening:

第二期循環器病対策推進基本計画と心臓リハビリテーションの今後の展開

磯部 光章(FJCS)(榊原記念病院)

1. 心不全に対する維持期心臓リハビリテーションの有効性に関するレビュー

明石 嘉浩(FJCS)(聖マリアンナ医科大学 循環器内科)

2. 回復期から維持期への移行時期に生じる心臓リハビリテーションの問題点についてーアンケート調査結果からー

木庭 新治(FJCS)(昭和大学医学部 内科学講座・循環器内科学部門)

3. 維持期心臓リハビリテーションに有用な医療者向けガイドブックの作成

佐田 政隆(FJCS)(徳島大学大学院 医歯薬学研究部 循環器内科学分野)

4. 急性期病院におけるリハビリテーションの対象となる心疾患患者の合併症調査ー多施設横断前向き研究ー

安 隆則(FJCS)(獨協医科大学日光医療センター 心臓・血管・腎臓内科)

5. 複数の合併症を有する心疾患患者に対する複合リハビリテーションのアンケート調査

福本 義弘(FJCS)(久留米大学医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門)

6. 複合疾患を有する心疾患患者の回復期リハビリテーションの効果と安全性に関する検証

磯 良崇(昭和大学藤が丘病院 循環器内科)

第97回日本産業衛生学会(広島) 予定

メインシンポジウム 2

【第1会場】2024年5月24日(金) 9:00～11:00

循環器病対策基本法を踏まえた両立支援

座長:

豊田 章宏(労働者健康安全機構 中国労災病院 治療就労両立支援センター)

佐伯 寛(産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座)

1. 心臓病疾患における両立支援の現状とこれから

演者 中山 敦子(公益財団法人榊原記念財団附属 榊原記念病院)

脳卒中患者への両立支援

2. 藤本 茂(自治医科大学 内科学講座 神

経内科学部門)

治療と仕事の両立支援の実際～職場と主治医の共通言語～

3. 永田 昌子 (産業医科大学 医学部 両立支援科学) 2023年5月22日-25日

企画テーマ:循環器病対策基本法を踏まえた両立支援

3. 市民への成果の紹介・啓発活動

① 患者さん向けリーフレット「心血管病の外来心臓リハビリ終了後の手引き～健やかな生活が続けるために～」

「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」

研究班

<https://cardiac-rehab.jp/leaflet/>

② 市民公開講座

2024年3月20日、患者・家族を対象として、脳卒中・心臓の維持期における生活の注意点などを中心に市民公開講座を開催し、HP上にオンデマンド動画を掲載した。

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（分担）研究報告書

循環器病リハに対する慢性期・維持期リハのレビュー作成(心臓)

分担研究者 明石嘉浩 聖マリアンナ医科大学・循環器内科学・主任教授

研究要旨

現在わが国では、循環器病リハビリテーション(循環器病リハ)は、脳卒中と心血管疾患や心不全を含む心臓病を対象とした急性期から回復期へのリハが中心となっている。一方で、維持期リハの実施状況、有効性については、エビデンスが著しく不足しており、その実態は不明である。心不全患者で維持期心リハを行った研究を対象にシステマティックレビューを行った。59文献が対象となり、メタアナリシスを行った。結果、全死亡・心臓死は、維持期群と回復期群とで変化なかったが、心不全入院・最高酸素摂取量・QOLは維持期群で有意に改善していた。虚血性心疾患患者を対象としたナラティブ・レビューを同時に実施し、維持期心リハ介入が、運動耐容能増加や有害な心イベント軽減に寄与している結果が多い結果となった。令和5年度は論文発表を行った。

分担研究者

神谷 健太郎・北里大学・医療衛生学部・教授
加藤 祐子・心臓血管研究所・循環器内科・心不全
担当部長・心臓リハビリテーション担当部長

A. 研究目的

本事業では、令和4年度に国内外の文献を整理し、心疾患における維持期リハのレビューをまとめる。

B. 研究方法

①維持期リハビリテーションにおけるレビューは心臓チームにおいて、心筋梗塞、狭心症、心不全の疾患に対するシステマティックレビューが作成された。

【心不全】

1. PIC0の設定
2. 予備検索：ハンドサーチであてはまりそうな論文をピックアップ
3. プロトコル出版（今回は無し）、レジストリ登録（PROSPERO登録済）
4. 本検索：2.の論文がピックアップされているかを確認
5. 一次&二次スクリーニング：rayyan or Endnote使用
6. risk of bias、GRADE評価
7. 解析：フォレストプロット、ファンネルプロット、サブ解析、感度分析
8. 必要なtable & figure作成：PRISMAフローチャート、フォレストプロット、ファンネルプロット、サブ解析&感度分析表作成

【虚血性心疾患】

英語文献を対象にして、2021年までのランダム化比較試験（RCT）を含む、冠動脈疾患患者に対する心臓リハビリテーションの効果を評価したシステマティックレビュー（SR）をもとに文献検索が行われた。SRであるコクランレビュー（Dibben G, et al. 2021）で扱われた期間以降に発表された論文については、CENTRALおよびMEDLINEを用いて検索を行った。検索式はSRと同様のものが使用され、対象研究デザインはRCTであり、対象者は冠動脈疾患患者とした。

文献のスクリーニングでは、題名と抄録による一次スクリーニングと本文の内容確認による二次スクリーニングを行った。スクリーニングの除外基準には、心臓リハプログラムの完遂前にランダム化されたもの、冠動脈疾患患者が対象の50%未満であるもの、心臓リハが終了してから6か月未満のもの、または心臓リハの実施期間が6か月未満のものが含まれていた。

研究内容の評価では、総死亡率、心血管死亡率、主要心血管イベント（MACE）発生率、心筋梗塞や急性冠症候群の発生率、心血管疾患による再入院率、運動耐容能、健康関連QOLスコアなどの予後指標を収集した。バイアスのリスク評価にはRisk of Bias 2を使用した。

（倫理面への配慮）

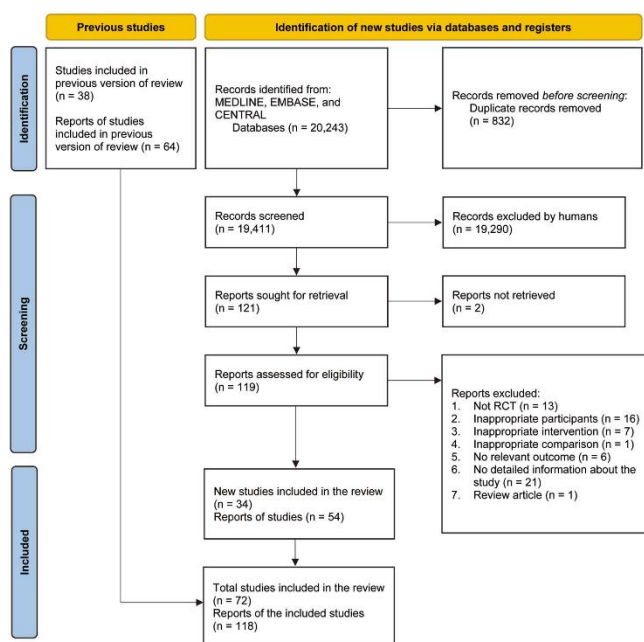
本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則に則り、人を対象とする医学系研究に関する倫理指

針を遵守して実施する。研究において使用する研究計画書、情報公開文書、各種手順書及びその他の資料は、倫理審査委員会で審議・承認され、研究機関の長の許可を得てから研究を開始する。これらの資料等に変更がある場合も、同様に倫理審査委員会での審議・承認及び研究機関の長の許可を得てから実施する。研究責任者は、研究に関わる全ての関係者が研究倫理及びその他の必要な知識・技術に関する教育研修を完了し、さらに研究期間中も継続して教育研修を受けることを保証する。

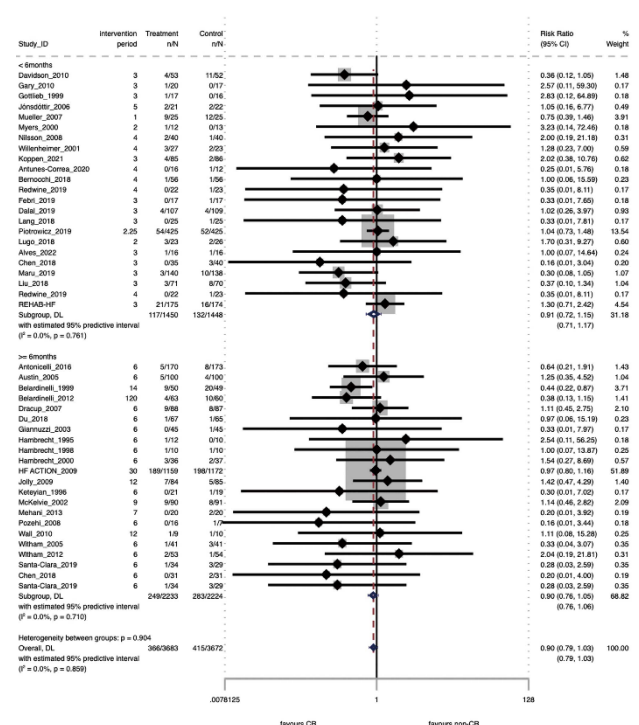
C. 研究結果

【心不全】

最終的に72文献が解析に含まれた(下図)。



全死亡に関しては、維持期心臓リハビリテーションは回復期までの心臓リハビリテーションと比較し、



有意差はなかった(下図)。続いて副次項目である再入院を調査したところ、維持期心臓リハビリテーションによって有意にリスクが軽減することが判明した。この中で心不全再入院に限定すると、やはり維持期心臓リハビリテーションによって有意な介入効果がみられた。最大酸素摂取量やQOLスコアは維持期心臓リハビリテーションによって有意に改善した。

心不全システムティックレビューのまとめ

主要評価項目

・全死亡、心不全死： 介入効果無し、6ヶ月未満と6ヶ月以上で有意差無し

副次評価項目

・全再入院： 介入効果有り、6ヶ月未満で10%、6ヶ月以上で31%低減
・心不全再入院： 介入効果あり、6ヶ月未満で44%、6ヶ月以上で20%低減
・最大酸素摂取量： 介入効果あり、6ヶ月未満で2.88、6ヶ月以上で3.08ml/kg/min改善
・QOL： 介入効果あり

【虚血性心疾患】

SRで用いられた91報の論文から13報、CENTRALおよびMEDLINEで検索された874報から3報が抽出され、合計16報が採択された(下表)。ほとんどの研究では

著者、発行年	対象	介入	評価項目
Higgins, H. C. 2001	PCI後の冠動脈疾患患者, n=105, 年齢 47 (CR), 48 (対照)	在宅、中程度の歩行、頻度記録なし、36-56週間	CR群は推定peak VO ₂ が有意に上昇 (F[1.64, 142.93] = 82.38, p<0.01)
Vestfold Heartzone Study Group, 2003	冠動脈疾患患者, n=197, 年齢 54±8(CR), 55±8(対照)	監視+在宅, Borg scale 11-13, 週2回/6週 (監視, 両群), 2年間 (在宅) (観察期間5年)	CR群男性は再発リスク低下 (RRR 22%, 95%CI 9-35%)
Seki, E. 2008	65歳以上の慢性期冠動脈疾患患者, n=34, 年齢 69±3(CR), 70±4(対照)	監視+在宅, AT相当, 週1回50-100分(監視)+週2回 30分(在宅), 6ヶ月間	対照群では6M時のpeakVO ₂ が有意に低下したが、CRではやや増加, CR群では膝伸屈能力が有意に増加。
Houle, J. 2012	ACS後患者, n=65, 年齢 58±8(CR), 59±9 (対照)	在宅, 歩数計を用いた個別プログラム, 12ヶ月間	QOLスコアがcontrol群に比べてCR群で有意に改善(p<0.01)
Byrjeland, R. 2015	2型糖尿病を合併した慢性期冠動脈疾患患者, n=137, 年齢 60±8 (CR), 63±7 (対照)	監視+在宅, Borg 15 x 10分 + Borg 12-14 x 50分, 週2回60分(監視)+週3回10分(在宅), 12ヶ月間	Control群に比べてCR群でATが有意に増加 (p = 0.04), Peak VO ₂ は増加せず (p=0.08)。

著者、発行年	対象	介入	評価項目
Hautala, A. J. 2017	ACS後患者, n=204, 年齢 60±11 (CR), 62±9 (対照)	監視, 最大心拍数の70-85%, 有酸素+レジスタンス 60-80分/週4-5回, 12ヶ月間	複合EINにて+再発+入院発生率低下 (RRR 73%, NNT 8), 増分費用対効果: €24511/QALYs
He, C. J. 2020	75歳以下の心臓病後患者, n=524, 年齢 61±13 (CR), 61±13 (対照)	在宅, 最大心拍数の65%-75%, 約40分/週3回, 3年間	全死亡 (HR 0.48, 95%CI 0.28-0.82, p<0.01)とMACE発生率(HR 0.57, 95%CI 0.40-0.83, p<0.01)が低下
Uddin, J. 2020	CABG後の患者, n=142, 年齢 54±6 (CR), 55±6 (対照)	在宅, Borg 11-13, 30分のレジスタンス/週4回 + 30分の歩行/週5回, 12ヶ月間	6M ftu peak VO ₂ がCR群で有意に高値(p<0.01), 心理尺度やLipid profile も有意に改善(p<0.01)
Lunde P. 2020	冠動脈疾患患者(n=83), 併発症後患者(n=19), その他(n=11), n=113, 年齢 59±9	在宅, 独自のアプリ, 12ヶ月間	peak VO ₂ がCR群で有意に上昇 (p<0.01, 95% CI 9.3-5)
Peydro, ED. 2021	ACS後の患者, n=67, 年齢 58±9 (遠隔CR), 55±10 (集合型CR)	在宅, Borg 12-14, アプリガイド下運動/10ヶ月間 (遠隔CR) vs 遠隔外来リハ週2回/2ヶ月間 (集合型CR)	遠隔CR群ではpeak VO ₂ が有意に上昇(p<0.01), 総身体活動量 (IPAQ) は集合型CR群と比較して遠隔CR群で有意に上昇(p<0.05)
Xiao M. 2021	AMI後の患者, n=164, 年齢 60±9 (CR), 59±9 (対照)	監視+在宅, HR130以下 or 安静時HR + 20以下の運動3ヶ月(監視) → 最大心拍数の65-80% / 週3-5回 9ヶ月 (在宅), 観察期間 25±15ヶ月間	MACE発生率が低値(HR 0.56, 95%CI 0.4-0.8, p=0.01)

著者、発行年	対象	介入	評価項目
Wilhelmsen, 1975	心筋梗塞3M後の患者, n=315, 年齢<51	監視, 生命の維持を断ればKarvonen指数0.8, 30分/週3回, 4年間 (観察期間5年)	死亡率 19%(CR) vs 29%(対照) (p = 0.18)
Roman, 1983	初回心筋梗塞後の患者, n=193, 年齢 56±10(CR), 59±9(対照)	監視, 最大心拍数の70%, 30分/週3回, 6-10ヶ月間(中央観測4ヶ月)	死亡率: 2.9%/年(CR) vs 5.2%/年 (対照) (p=0.05-0.10), 狭心症発症率 5.1%/年 (CR) vs 10.2%/年 (対照) (p<0.01)
Ornish, 1990	EF25%以上の冠動脈疾患患者, n=48, 年齢 56±8(CR), 60±9(対照)	監視, 目標心拍数の50-80%, 30分/週1-6回, 12ヶ月間(観察期間5年)	狭心症症状がCR群で改善(p<0.01), 冠動脈狭窄率もCR群が有意に改善
Haskell, W. L. 1994	冠動脈疾患患者, n=300, 年齢 56±7	在宅, 最大心拍数の70-85%, 30分/週5回, 4年間	心血管再入院率はCR群で低値 (RR 0.81, p<0.05; 95%CI 0.4-0.9), 狭窄部もCR群で有意に縮小(p<0.02)
Dugmore, L. D. 1999	心筋梗塞後の患者, n=124, 年齢 52±1(CR), 53±1(対照)	監視, 低リスク50-65% of peak VO ₂ , 高リスク: 65-80% of peak VO ₂ , 週3回, 12ヶ月間(観察期間5年)	CR群では心筋梗塞再発率 8% vs 22% (p<0.05), peak VO ₂ (p<0.01), 心理的プロフィール (p<0.05), QOLスコア(p<0.01)が改善。

男性が対象者の大部分を占めており、監視下で行われた運動プログラムはわずか3つであり、他の研究では非監視下のプログラムに移行していた。

運動強度については、最大心拍数に対する割合や自覚的運動強度に基づいて処方されている報告が多数であり、近年は独自のアプリケーションを使用した運動プログラムも見られたが、詳細は不明であった。

バイアスに関するリスク評価では、いくつかの研究で高リスクのバイアスが見られた。慢性期・維持期の心臓リハビリ実施の影響について、死亡率やMACEの発生率などの結果が報告されていたが、研究によって結果にばらつきがあった。

検討の結果、冠動脈疾患患者に対する慢性期・維持期の心臓リハビリテーションは、心血管イベントの発症を抑制し、運動耐容能の向上や生活の質の改善に寄与する可能性があることが示唆された。

D. 考察

レビュー作成において維持期の定義に難儀した。心臓リハビリテーションでは維持期とは保険適用期間であるリハビリ開始より150日間を経過した後を示しており、脳卒中リハビリテーションにおいては、180日間の回復期後の維持期・生活期を指す。よって今回の研究班では「慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」という題から、より正確に維持期・生活期のリハビリテーションと言語を適正化した。

レビューで採用した研究は欧米の患者を主に対象としているため、日本の患者に関してはさらなる検証が必要と考えられた。また、心リハの実施方法や期間、実施場所についても慎重に検討する必要がある。特に、遠隔リハビリテーションの可能性についても今後の研究が期待される。

E. 結論

維持期・生活期リハビリテーションは心疾患においても有効であるが、心不全においてエビデンスが多く示され、虚血性心疾患においては、いまだエビデンスが少なかったため、ナラティブレビューとした。

F. 健康危険情報

本研究は侵襲を伴わないレビュー作成のため、健康被害等は生じなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

Impact of Long-Term Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients with Chronic Heart Failure - A Systematic Review and Meta-Analysis.

Shuhei Yamamoto, Masatsugu Okamura, Yoshihiro J Akashi, Shinya Tanaka, Masashi Shimizu, Yohei Tsuchikawa, Kohei Ashikaga, Kentaro Kamiya, Yuko Kato, Atsuko Nakayama, Shigeru Makita, Mitsuaki Isobe.

Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 2024年1月12日

慢性期・維持期冠動脈疾患に対する心臓リハビリテーションの有効性に関するレビュー

足利 光平, 明石 嘉浩, 加藤 祐子, 神谷 健太郎, 山本 周平, 岡村 正嗣, 田中 伸弥, 土川 洋平, 清水 将史, 吉岡 さゆり, 中山 敦子, 牧田 茂, 磯部 光章

心臓 55(10) 1003-1014 2023年10月

2. 学会発表

総括に同じ

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（分担）研究報告書

循環器病リハに対する慢性期・維持期リハのレビュー作成(脳卒中)

分担研究者 下堂蘭恵 国立大学法人鹿児島大学・医歯学域医学系・教授

研究要旨

現在わが国では、循環器病リハビリテーション(循環器病リハ)は、脳卒中和心血管疾患や心不全を含む心臓病を対象とした急性期から回復期へのリハが中心となっている。一方で、維持期リハの実施状況、有効性については、エビデンスが著しく不足しており、その実態は不明である。脳卒中慢性期（維持期・生活期）におけるリハビリテーション診療（主に治療・介入）の有効性に関する文献レビューを行い、現行の脳卒中リハの課題を検討し、維持期リハ指針の作成に寄与することを目的とした。さらに、最終的に、脳卒中リハにおける研究成果の解釈について、特に慢性期（維持期・生活期）においては、海外との環境因子[保険制度(自己負担割合)や生活様式、住宅環境]の違いや、研究のセッティング(目的や対象)について配慮が必要と考察した。

分担研究者

橋本 洋一郎・済生会熊本病院・脳卒中センター・
特別顧問

A. 研究目的

脳卒中慢性期（維持期・生活期）におけるリハビリテーション診療（主に治療・介入）の有効性に関する文献レビューを行い、現行の脳卒中リハの課題を検討し、維持期リハ指針の作成に寄与する。

B. 研究方法

前年度報告書で詳細を発表した。

（倫理面への配慮）

前年度報告書で詳細を発表した。

C. 研究結果

前年度報告書で詳細を発表した。

D. 考察

前年度報告書で詳細を発表した。

E. 結論

前年度報告書で詳細を発表した。

F. 健康危険情報

前年度報告書で詳細を発表した。

G. 研究発表

1. 論文発表

脳卒中の維持期（生活期）リハビリテーションの効果に関するナラティブレビュー

「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」班

脳卒中 46 (1) 87-119, 2024. (Jpn J Stroke 46: 87-119, 2024)

2. 学会発表

総括に同じ

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（分担）研究報告書

維持期リハビリテーションの多施設アンケート調査(心臓)

分担研究者 木庭新治 学校法人昭和大学・歯学部全身管理歯科学講座総合内科学部門
/医学部内科学講座循環器内科学部門・教授（兼任）

研究要旨

現在わが国では、循環器病リハビリテーション(循環器病リハ)は、脳卒中と心血管疾患や心不全を含む心臓病を対象とした急性期から回復期へのリハが中心となっている。一方で、維持期リハの実施状況、有効性については、エビデンスが著しく不足しており、その実態は不明である。維持期心臓リハビリテーションの実態調査のため、日本心臓リハビリテーション学会を通じてアンケートによる意識調査を行った。全国から565施設(38%)から回答を得た。維持期心臓リハビリテーションを望む施設は多かったが、実施可能施設や連絡手段、情報取得などのそのシステム構築に問題があることがわかった。維持期リハの提供体制の整備、保険医療の拡大、指導テキストの作成が必要である。令和5年度は、論文発表した。

分担研究者
中山敦子・榊原記念病院心臓リハビリテーション
室長
長谷川 恵美子・聖学院大学・心理福祉学部心理福
祉学科・教授
石原 俊一・文教大学・人間科学部心理学科・教授、
副学長

A. 研究目的

前年度報告書で詳細を発表した。

B. 研究方法

前年度報告書で詳細を発表した。

（倫理面への配慮）

前年度報告書で詳細を発表した。

C. 研究結果

前年度報告書で詳細を発表した。

D. 考察

前年度報告書で詳細を発表した。

E. 結論

前年度報告書で詳細を発表した。

F. 健康危険情報

前年度報告書で詳細を発表した。

G. 研究発表

1. 論文発表

回復期から慢性期・維持期への移行時期に生じる心
大血管リハビリテーションの現状と課題

木庭新治, 中山敦子, 牧田 茂, 佐田政隆, 石原 俊一,
衣笠良治, 長谷川恵美子, 宮島 功, 吉田俊子, 磯部
光章

心臓リハ 2024 ; 30:6-13

2. 学会発表

総括に同じ

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（分担）研究報告書

維持期リハビリテーションの多施設アンケート調査(脳卒中)

分担研究者 中井完治 社会医療法人財団仁医会牧田総合病院・脳神経外科・医長

研究要旨

現在わが国では、循環器病リハビリテーション(循環器病リハ)は、脳卒中和心血管疾患や心不全を含む心臓病を対象とした急性期から回復期へのリハが中心となっている。一方で、維持期リハの実施状況、有効性については、エビデンスが著しく不足しており、その実態は不明である。維持期脳卒中リハビリテーションの実態調査のため、日本心臓リハビリテーション学会を通じてアンケートによる意識調査を行った。全国から134施設(11%)から回答を得た。脳卒中生活期リハビリテーションを医療保険診療で行うことについて51.5%の施設が、患者個々の疾患・病態によっては、保険診療として行うことが望ましいと回答した。

分担研究者

中山敦子・榊原記念病院心臓リハビリテーション
室長

近藤 国嗣・東京湾岸リハビリテーション病院・リ
ハビリテーション科・院長

豊田 章宏・独立行政法人労働者健康安全機構中国
労災病院・治療就労両立支援センター・所長

A. 研究目的

前年度報告書で詳細を発表した。

B. 研究方法

前年度報告書で詳細を発表した。

（倫理面への配慮）

前年度報告書で詳細を発表した。

本研究の実施は公益財団法人榊原記念病院倫理委
員会で承認されている。（承認番号22-025）

C. 研究結果

前年度報告書で詳細を発表した。

D. 考察

前年度報告書で詳細を発表した。

E. 結論

前年度報告書で詳細を発表した。

F. 健康危険情報

前年度報告書で詳細を発表した。

G. 研究発表

1. 論文発表

現在、国内雑誌に投稿準備中である。

2. 学会発表

総括に同じ

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（分担）研究報告書

維持期リハビリテーションのガイドブック作成（心臓・脳卒中）

分担研究者 牧田 茂 埼玉医科大学・国際医療センターリハビリテーション科・客員教授

研究要旨

維持期・生活期における心臓リハビリテーションのレビュー文献とアンケート調査の結果をもとにガイドブックを作成した。各項建てを行い、執筆者を分担した。編集会議を繰り返し、令和5年度3月に完成し、3月22日にホームページ上で公開、令和6年度に日本心臓リハビリテーション学会会員には配布予定である。

分担研究者

中山敦子・榊原記念病院心臓リハビリテーション室長
角田亘・国際医療福祉大学医学部リハビリテーション医学教室
佐田政隆・国立大学法人徳島大学・大学院医歯薬学研究部（医学域）・教授
吉田俊子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授
宮島功・社会医療法人近森会近森病院
橋本洋一郎・済生会熊本病院脳卒中センター
豊田章宏・独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院治療就労両立支援センター
寛智裕・国際医療福祉大学・成田保健医療学部作業療学科・助教
新見昌央・日本大学・リハビリテーション医学分野・教授
重松孝・浜松市リハビリテーション病院・リハビリテーション科・えんげセンター長
神谷健太郎・北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科
加藤祐子・心臓血管研究所循環器内科
衣笠良治・鳥取大学医学部・循環器・内分泌代謝内科学分野・講師
長谷川恵美子・聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科
近藤国嗣・東京湾岸リハビリテーション病院/東京湾岸リハビリテーション研究・教育センター

A. 研究目的

本事業では、令和4年度に国内外の文献を整理し、心疾患における維持期リハのガイドブックを作成する。

2020年（令和2年）には循環器病対策推進基本計画が制定された。そのなかでリハビリについては、「脳卒中患者では（中略）急性期に速やかにリハビリテーションを開始し、円滑に回復期及び維持期のリハビリテーションに移行することが求められ、医

療と介護の間で切れ目のない継続的なリハビリテーションの提供体制をより一層構築していく必要がある」と記載され、心血管病についても「多職種による疾病管理プログラムとして心血管疾患におけるリハビリテーションを実施することが関連学会より提唱されている」。いずれの疾患においても再発予防、重症化予防、生活再建や就労等を目指す中で取り組むべき施策として、「急性期から回復期及び維持期・生活期までの状態に応じたリハビリテーションの提供等の取組を進める」と記載されている。

慢性期、回復期、維持期・生活期のリハビリについては、必ずしも十分な科学的根拠がそろわず、また医療機関における診療体制の構築も不十分な現状が続いている。そのため厚生労働省では、2022年より科学研究費補助金事業として「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」（研究代表者：磯部光章）を立ち上げ、現状の実態調査に基づいた問題点の把握、科学的根拠の収集を行ってきた。さらに、それに基づいたガイドブックの作成が研究班事業の主要な目的となった。

B. 研究方法

維持期リハビリテーションにおけるレビューとアンケート調査結果をもとに維持期・生活期リハビリテーションのガイドブックを作成する。ガイドブックは医療者用に作成し、患者用には外来などで配布できるようにリーフレットを作成する。

（倫理面への配慮）

ガイドブック作成に関して、患者会の協力のもと、倫理面の配慮は可能な限り行った。

C. 研究結果

編集会議を8回繰り返し、維持期・生活期リハビリテーションのガイドブックを作成した。

【ガイドブック執筆者】

磯部光章 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院
明石嘉浩 聖マリアンナ医科大学循環器内科
石原俊一 文教大学人間科学部心理学科
角田亘 国際医療福祉大学医学部リハビリテーション医学教室
寛智裕 国際医療福祉大学成田保健医療学部作業療法学科
加藤祐子 心臓血管研究所循環器内科
神谷健太郎 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科
衣笠良治 鳥取大学医学部循環器・内分泌代謝内科学分野
木庭新治 昭和大学歯学部全身管理歯科学講座総合内科学部門/医学部内科学講座循環器内科学部門教授(兼任)
近藤国嗣 東京湾岸リハビリテーション病院/東京湾岸リハビリテーション研究・教育センター
佐田政隆 徳島大学大学院医歯薬学研究部(医学域)循環器内科学分野
重松孝 浜松市リハビリテーション病院リハビリテーション科 えんげセンター長
下堂蘭恵 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学
豊田章宏 独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院治療就労両立支援センター
中井完治 社会医療法人財団仁医会牧田総合病院脳神経外科
中山敦子 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院循環器内科
新見昌央 日本大学リハビリテーション医学分野
橋本洋一郎 済生会熊本病院脳卒中センター
長谷川恵美子 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科
牧田茂 川口きゅうぽらリハビリテーション病院/埼玉医科大学国際医療センター
宮島功 社会医療法人近森会近森病院臨床栄養部
吉田俊子 聖路加国際大学大学院看護学研究科
足利光平 聖マリアンナ医科大学スポーツ医学講座
有馬美智子 鹿児島大学病院リハビリテーション科
石井典子 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院心臓リハビリテーション室
井上完起 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院循環器内科
伊藤純平 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院リハビリテーション科
稲富雄一郎 済生会熊本病院脳卒中センター脳神経内科
衛藤誠二 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学
大瀧倫太郎 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学
岡村正嗣 シャリテ・ベルリン医科大学シャリテ保健研究所再生医療研究センター
河村健太郎 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学
小林紗季子 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院リハビリテーション科
塩崎正幸 東京都立多摩総合医療センター循環器内科
清水将史 大阪公立大学医学部附属病院 理学療法士

鈴木裕太 厚生労働省国立保健医療科学院保健医療経済評価研究センター
滝沢光太郎 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院リハビリテーション科
田中伸弥 名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション部 理学療法士
土川洋平 名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション部 理学療法士
徳永誠 熊本機能病院脳神経内科
中島誠 熊本大学病院脳血管障害先端医療寄附講座
永沼雅基 済生会熊本病院脳卒中センター脳神経内科
濱崎伸明 北里大学病院リハビリテーション部 主任/理学療法士
堀健太郎 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院リハビリテーション科
三浦聖史 白十字リハビリテーション病院回復期リハビリテーション科
宮田隆司 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学
八木秀介 徳島大学大学院医歯薬学研究部(医学域)地域・家庭医療学分野
山本周平 信州大学医学部附属病院リハビリテーション部
横田裕哉 昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門
吉田輝 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学

【ガイドブック作成協力団体】

一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会
一般社団法人心臓弁膜症ネットワーク
一般社団法人日本循環器学会
一般社団法人日本脳卒中学会
公益社団法人日本脳卒中協会
特定非営利活動法人日本心臓リハビリテーション学会

【ガイドブック外部評価委員】

川勝弘之 公益社団法人日本脳卒中協会 副理事長
代田浩之 順天堂大学保健医療学部 研究科長・特任教授
福原斉 一般社団法人心臓弁膜症ネットワーク 代表理事
藤本茂 自治医科大学内科学講座神経内科学部門教授
百村伸一 さいたま市民医療センター 院長

脳卒中と心血管病の 維持期・生活期リハビリガイドブック

厚生労働省科学研究費補助金事業

編集
「循環器病の慢性期・維持期における
リハビリテーションの有効性の検証のための研究」研究班



//cardiac-rehab.jp/に公開し、2024年4月21日の時点で訪問者カウンター 12222 名である。

心血管病の外来心臓リハビリ終了後の手引き

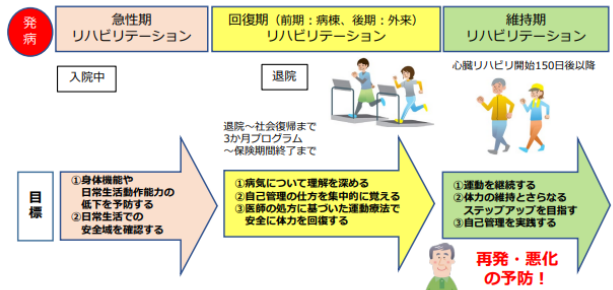
～健やかな生活続けるために～

「脳卒中と心血管病の維持期・生活期リハビリガイドブック」より
厚生労働省科学研究費補助金事業研究班

①生活習慣

循環器病の再発・悪化を防ぐためには、退院直後だけでなく、その後の生活の中で、適切な生活習慣を維持することが重要です。

★心臓リハビリの流れ



禁煙を続けましょう

- ・たばこは、心血管疾患・脳梗塞の再発のリスクを高めます。
- ・禁煙を実施しても、再度喫煙してしまう場合には、禁煙外来など専門家の支援を受けましょう。



健康的な食習慣をつづける

- ・バランスの良い食事をこころがけましょう。
- ・塩分は控えめにしましょう。
- ・野菜やくだものを摂取しましょう（カリウムが高いなどの理由で摂取を控える場合もあります）。
- ・食事を楽しみましょう。



D. 考察

本研究班は22名の研究者と28名の研究協力者で組織され、実態に関するアンケート調査、発表された文献のシステマティックレビューを行ってきた。研究班が行った調査では、この領域のリハビリの重要性とともに、普及が停滞している現状が浮き彫りとなっている。

これらの結果に基づいて、一線で活躍しているエキスパートの合議でまとめられたリハビリの指南書が本ガイドブックである。作成にあたっては診療にあたる多くの一般医師や多職種のご意見も参考にし、また関連諸学会・患者団体のご意見も取り入れることに留意した。

本ガイドブックは実践ハンドブックを目指したが、生活療法についてなど各種ガイドラインと組み合わせで使用されることを想定している。また患者用リーフレットは一般診療医が外来で利用できるように、今後本邦における維持期・生活期リハビリテーションの充実を願って作成した。

E. 結論

2024年3月22日厚労科研FA19ホームページ上<https://cardiac-rehab.jp/>

F. 健康危険情報

本研究は侵襲を伴わないガイドブック作成のため、健康被害等は生じなかった。

G. 研究発表

なし

2. 学会発表

総括に同じ

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対総合研究事業）
（分担）研究報告書

市民公開講座の実施とオンデマンド配信（心臓・脳卒中）

研究代表者 磯部光章 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院院長

研究要旨

二年間にわたって行われた班研究である循環器病の維持期・生活期におけるリハビリテーションの有効性にかかる成果を一般市民に公開し、併せてリハビリや両立支援、社会的な支援の観点から公開講座を施行した。令和6年度3月20日に開催し、236名の参加者を得た。公開講座の様子はオンデマンド配信で一般に無料公開を継続している。参加者からは良好なアンケート結果をえた。

分担研究者

中山敦子・榊原記念病院心臓リハビリテーション室長
近藤国嗣 東京湾岸リハビリテーション病院/東京湾岸リハビリテーション研究・教育センター
吉田 俊子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授
豊田章宏 独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院治療就労両立支援センター
牧田茂 川口さゆうぼらリハビリテーション病院/埼玉医科大学国際医療センター
角田亘 国際医療福祉大学医学部リハビリテーション医学教室

A. 研究目的

脳卒中、心疾患とも慢性期、回復期、維持期・生活期のリハビリについては、必ずしも十分な科学的根拠がそろわず、また医療機関における診療体制の構築も不十分な現状が続いている。この間当研究班ではその有効性、実施状況について研究を重ねてきた。結論としてリハビリは継続的に行うことが予後改善、QOLの改善に有効であることを示したが、一方その実施状況は極めて不十分な状況であることを報告した。そのためこの研究班で得られた成果を一般市民、患者、医療従事者に周知していくことを班研究の目的として設定した。

B. 研究方法

班員を中心に患者団体からも協力を得て、令和6年3月20日にオンラインでの市民公開講座を行った。主催は当研究班と日本心臓財団、榊原記念財団の3団体である。さらに回復期リハビリテーション病棟協会、心臓弁膜症ネットワーク、日本医師会、日本循環器学会、日本循環器協会、日本心臓リハビリテーション学会、日本心不全学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中協会より後援を得た。講座のタイトルは「循環器病後の豊かな生活を目指して～脳卒中・心臓病後の維持期・生活期リハビリ

テーションと社会生活～」とした。7つの講演とパネルディスカッションで構成した。講演には班員のほかに厚生労働省、および患者団体からも演者として参加をいただいた。

（倫理面への配慮）

倫理面の配慮は可能な限り行った。

C. 研究結果

3月20日（水・祝）13:30～16:00にZoomで登録者に配信を行った。総登録者数は370名、視聴者数は236名であった。会の様子は引き続き研究班のHPから無制限、無料でのオンデマンド配信を行っている。参加者からのアンケートは108名から回答をいただき概ね好評であった。詳細は以下のサイトに掲載した。
[5c3ea42fa8b2d3f30d2ef7c10b9c253a-3.pdf \(heartr.jp\)](https://www.heartr.jp/5c3ea42fa8b2d3f30d2ef7c10b9c253a-3.pdf)

D. 考察と結論

研究班の成果を社会還元する企画であり、限られた予算の中で適切な情報発信がなされた。

E. 健康危険情報

本研究は侵襲を伴わないガイドブック作成のため、健康被害等は生じなかった。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. プログラム

- 13:30 **開会あいさつ**
磯部 光章(榊原記念病院 院長)
- 13:30 **講演** 進行:MC(影アナウンス)
13:35 厚生労働省より
(10分) 丸目 恭平(厚生労働省)
- (15分) 心臓病の回復期・生活期リハビリテーション
中山 敦子(榊原記念病院 循環器内科 副部長)
- (15分) 脳卒中の回復期・維持期リハビリテーション
近藤 国嗣(東京湾岸リハビリテーション病院 院長)
- (15分) 病後の回復・再発予防を目指す生活・食事と日常生活の工夫
吉田 俊子(聖路加国際大学 看護学部長・教授)
- (15分) 社会復帰に向けての課題を克服する-両立支援とは-
豊田 章宏(中国労災病院労務両立支援センター所長)
- (15分) 脳卒中回復を早めるためにまず知ろう。マヒ・お薬・リハビリの何
川勝 弘之(日本脳卒中協会 副理事長)
- (15分) 心臓手術後の生活を体験して
福原 斉(心臓弁膜症ネットワーク 代表理事)

市民公開講座

循環器病後の 豊かな生活を目指して

脳卒中・心臓病 後の維持期・生活期リハビリテーションと社会生活

参加無料 2024年 **3/20** (水・祝) 13:30-16:00

Zoomライブ配信

開会あいさつ
磯部 光章 榊原記念病院 院長

第1部 講演
厚生労働省より
丸目 恭平 厚生労働省

**心臓病の回復期・維持期
リハビリテーション**
中山 敦子 榊原記念病院 心臓リハビリテーション室長

**脳卒中(脳血管疾患)の回復期・生活期
リハビリテーション医療**
近藤 国嗣 東京湾岸リハビリテーション病院 院長

**病後の回復・再発予防を目指す
生活・食事と日常生活の工夫**
吉田 俊子 聖路加国際大学 看護学部長・教授

**社会復帰に向けての課題を克服する
一両立支援とは-**
豊田 章宏 中国労災病院 労務両立支援センター所長

**脳卒中回復を早めるためにまず知ろう
マヒ・お薬・リハビリの何故**
川勝 弘之 日本脳卒中協会 副理事長

心臓手術後の生活を体験して
福原 斉 心臓弁膜症ネットワーク 代表理事

第2部 パネルディスカッション
司会
牧田 茂 川口せきやうほうしリハビリテーション病院
角田 亘 聖路加国際大学医学部
リハビリテーション医学教室 主任教授

パネリスト
中山 敦子 川勝 弘之
近藤 国嗣 福原 斉
吉田 俊子 藤本 茂
豊田 章宏

開会あいさつ
藤本 茂 自治医科大学
内科学講座神経内科学部門 主任教授

事前視聴登録
下記URLまたは二次元コードより視聴登録を
お願いします。
https://us06web.zoom.us/join/register/WN_XEDnCW2mTRya78CE0gfhNg

主催
厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策
総合研究事業「新薬器の慢性期・維持期のリハビリテーションの
有効性の検証のための研究」(研究代表者:磯部 光章)
榊原記念財団
日本心臓財団

後援
回復期リハビリテーション病棟協会、心臓弁膜症ネットワーク
日本医師会、日本循環器学会、日本看護協会
日本心臓リハビリテーション学会、日本心不全学会
日本脳卒中学会、日本脳卒中協会 (五十商標)

(事務局: 榊原記念病院 経営企画部 メールアドレス: kikaku@shi.heart.or.jp)

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」研究班	医療従事者向けガイドブック「脳卒中・心血管病の維持期・生活期におけるリハビリテーションガイドブック」	磯部 光章		ライフサイエンス社	厚労科研F A19ホームページ		https://cardiac-rehab.jp
「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」研究班	患者さん向けリーフレット「心血管病の外來心臓リハビリ終了後の手引き～健やかな生活を送るために～」	磯部 光章	回復期から慢性期・維持期への移行時期に生じる心大血管リハビリテーションの現状と課題	ライフサイエンス社	厚労科研F A19ホームページ		https://cardiac-rehab.jp

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
木庭新治, 中山敦子, 牧田 茂, 佐田政隆, 石原 俊一, 衣笠良治, 長谷川恵美子, 宮島 功, 吉田俊子, 磯部光章	回復期から慢性期・維持期への移行時期に生じる心大血管リハビリテーションの現状と課題		心臓リハ 2024 ; 30	心臓リハビリテーション学会	2024
Shuhei Yamamoto, Masatsugu Okamura, Yoshihiro J Akashi, Shinya Tanaka, Masashi Shimizu, Yohei Tsuchikawa, Kenichi Ashikaga, Kentaro Kamiya, Yuko Kato, Atsuko Nakayama, Shigeru Makita, Mitsuaki Isobe.	Impact of Long-Term Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients with Chronic Heart Failure - A Systematic Review and Meta-Analysis.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society	2024年1月12日		2024
足利 光平, 明石 嘉浩, 加藤 祐子, 神谷 健太郎, 山本 周平, 岡村 正嗣, 田中 伸弥, 土川 洋平, 清水 将史, 吉岡 さゆり, 中山 敦子, 牧田 茂, 磯部光章	慢性期・維持期冠動脈疾患に対する心臓リハビリテーションの有効性に関するレビュー	雑誌「心臓」	55(10)	1003-1014	2023

中山 敦子	新しい分野の心臓リハビリテーションを知る 社会復帰と就労支援をサポートする心臓リハビリテーション	循環器ジャーナル	71(3)	386-392	2023
中山 敦子	心臓リハビリテーションチームを主体とした両立支援の実際 遠隔両立支援も含めて	雑誌「心臓」	55(6)	554-558	2023
中山敦子	遠隔診療の実際	Medical Practice	vol.40 No.6		2023
中山 敦子	治療と仕事の両立支援 心疾患	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	60(5)	394-400	2023
中山 敦子	大血管疾患への心臓リハビリテーションの最新トピックス, 遠隔大血管管理を含めて	雑誌「循環器内科」	93(4)	376-382	2023
「循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」班	脳卒中の維持期（生活期）リハビリテーションの効果に関するナラティブレビュー	雑誌「脳卒中」	46(1)	87-119	2024

2024年 4 月 1 日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 公益財団法人榊原記念財団
附属榊原記念病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 磯部 光章

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 院長
- （氏名・フリガナ） 磯部 光章・イソベ ミツアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 埼玉医科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 竹内 勤

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーション科・客員教授
- (氏名・フリガナ) 牧田 茂・マキタ シゲル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	☐	☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 聖マリアンナ医科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 北川 博昭

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 循環器内科学・主任教授
- (氏名・フリガナ) 明石 嘉浩・アカシ ヨシヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	☐	☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☒ 無 ☐ (有の場合はその内容:企業等より得ている研究費等については、自己申告がなされており、その情報により利益相反は適切に管理されている)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2024年 4 月 1 日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 公益財団法人榊原記念財団
附属榊原記念病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 磯部 光章

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） リハビリテーション室・室長
- （氏名・フリガナ） 中山 敦子・ナカヤマ アツコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 国立大学法人徳島大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 中尾 幸一

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 大学院医歯薬学研究部（医学域）・教授
(氏名・フリガナ) 佐田 政隆・サタ マサタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	徳島大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 学校法人昭和大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 久光 正

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 歯学部全身管理歯科学講座総合内科部門/医学部内科学講座循環器内科学部門・教授（兼担）
（氏名・フリガナ） 木庭 新治・コバ シンジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
		審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒ ☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐ ☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 北里大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 島袋 香子

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 医療衛生学部・教授
- （氏名・フリガナ） 神谷 健太郎・カミヤ ケンタロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 心臓血管研究所

所属研究機関長 職 名 所長

氏 名 及川 裕二

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 心不全担当部長、心臓リハビリテーション科担当部長
- （氏名・フリガナ） 加藤 祐子・カトウ ユウコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 中島 廣光

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 循環器・内分泌代謝内科学分野・講師
- （氏名・フリガナ） 衣笠 良治・キヌガサ ヨシハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	鳥取大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長) —

機関名 聖路加国際大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 堀内 成子

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 大学院看護学研究科・教授
- （氏名・フリガナ） 吉田 俊子・ヨシダ トシコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 聖学院大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 小池 茂子

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 心理福祉学部心理福祉学科・教授
（氏名・フリガナ） 長谷川 恵美子・ハセガワ エミコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 文教大学
所属研究機関長 職 名 学長
氏 名 中島 滋

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 人間科学部心理学科・教授、副学長
（氏名・フリガナ） 石原 俊一・イシハラ シュンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☐ 無 ☒ （無の場合はその理由：現在作成中）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☐ 無 ☒ （無の場合は委託先機関：榊原記念病院）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由：）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容：）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 社会医療法人近森会近森病院
所属研究機関長 職 名 院長
氏 名 川井 和哉

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 臨床栄養部・部長
（氏名・フリガナ） 宮島 功・ミヤジマ イサオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国際医療福祉大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 鈴木 康裕

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) リハビリテーション医学教室・教授
- (氏名・フリガナ) 角田 亘・カクダ ワタル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒	☐	☒	国際医療福祉大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐	☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人鹿児島大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 佐野 輝

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医歯学域医学系・教授
- (氏名・フリガナ) 下堂 蕨 恵・シモドウゾノ メグミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐	☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 済生会熊本病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 中尾 幸一

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 脳卒中センター・特別顧問
- （氏名・フリガナ） 橋本 洋一郎・ハシモト ヨウイチロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
		審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒ ☐	☒	済生会熊本病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐ ☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 社会医療法人財団仁医会
牧田総合病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 小谷 奉文

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 脳神経外科・医長
- （氏名・フリガナ） 中井 完治・ナカイ カンジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 労働者健康安全機構中国労災病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 栗栖 薫

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 治療就労両立支援センター・所長
- （氏名・フリガナ） 豊田 章宏・トヨタ アキヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国際医療福祉大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 鈴木 康裕

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 成田保健医療学部・助教
- （氏名・フリガナ） 筧 智裕・カケヒ トモヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	国際医療福祉大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2024年 4 月9 日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長) —

機関名 東京湾岸リハビリテーション病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 近藤 国嗣

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 院長
- （氏名・フリガナ） 近藤 国嗣・コンドウ クニツグ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榑原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 日本大学医学部

所属研究機関長 職 名 医学部長

氏 名 木下 浩作

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） リハビリテーション医学分野・教授
- （氏名・フリガナ） 新見 昌央・ニイミ マサチカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 浜松市リハビリテーション病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 昆 博之

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） リハビリテーション科・えんげセンター長
- （氏名・フリガナ） 重松 孝・シゲマツ タカシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	榊原記念病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☐ 無 ☒ （無の場合は委託先機関： 院内倫理委員会が兼務 ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。